

No.43

全国保健師長会 福島県支部ニュース

H31.3月発行 編集責任者 鈴木栄子

全国保健師長会福島県支部の皆様へ

春はすぐそこに来ています。桜の開花が待ち遠しい今日このころですね。会員の皆様にはますますご健勝でご活躍の日々をお過ごしのことと思います。今回のニュースは、全国での総会や看護協会と合同で行った研修会等の報告となります。

第40回全国保健師長会代議員総会について

県中保健福祉事務所の本田あゆみさんからの報告です。

平成30年11月10日（土）に愛知県名古屋市において第40回代議員総会及び40周年記念事業が開催され、代議員として出席しましたので概要を報告します。

まず総会では、提案された10議案のうち、第10号議案を除いて全て承認されました。第10号議案は規約第5条の改正で、多くの保健師が師長会に参加できる体制を整える目的で、いわゆるOBも会員にするという提案でしたが、出席者の2/3以上の賛成を得られず否決となりました。さらに役員改選があり、南相馬市の山田祐子さんが副会長に選ばれました。



最後に次期開催県（岡山市：平成31年11月16日（土））である岡山県支部長の西尾恵さんから挨拶があり閉会となりました。

午後は「みる・つなぐ・動かす～保健師の原点から住民とともに創る未来～」をメインテーマとして40周年記念事業が行われました。

冒頭、青柳会長から「会員一人ひとりのつながりを強化し、先輩方が築いてこられた活動を継承し、さらに発展させていく。」との挨拶がありました。

メインイベントは歴代会長リレートーク「未来を創造する保健師活動について～後輩保健師に伝えたいこと～」です。まず、第10代会長 大場エミ様から、今こそ長い経験とスキルを持った保健師OBが力を結集し、現役や教育機関と一体となって社会に期待される保健師を育成していくことが必要という話がありました。

続いて、第11代会長 加藤静子様から、保健師は状況や時期をすばやく判断して好機を逃さず的確に行動することが大切であるという話がありました。

最後は第12代会長の鎌田久美子様から保健師は使命感と誇りをもって、目先の

ことだけにとらわれず本質を見極める力と、臆せず一步を踏み出す勇気と決断が必要であるという話がありました。

他に、満 40 歳になる保健師からも「目指す保健師像」についてメッセージが届けられました。

先輩方から力強いメッセージをいただき、私も、地域に愛着を持ちながら住民の健康と命を守る保健師活動のすばらしさと責任の重さ、さらに科学的根拠に基づく専門職としていくつになっても学び続けることの大切さを後輩たちにしっかり伝えていかなければならないと強く感じました。



平成 30 年度全国保健師長会研修会の報告

福島県保健福祉部保健福祉総務課の森里美さんからの報告です。

平成 30 年 11 月 8 日（木）～9 日（金）愛知県名古屋市において、「平成 30 年度全国保健師長会研修会」が開催され、自治体保健師のうち指導する職にある者及び全国保健師長会会員 358 人が参加しました。

本研修会は、「効果的な保健活動の展開に向け、リーダーに求められること」をテーマとして、効果的な保健活動（保健事業）についての講演及び実践報告等がなされました。

「効果的・効率的な保健事業の展開」「人材確保・育成」を学ぶとともに、グループワークでは「効果的な保健事業の展開のために」をテーマに活発な意見交換が行われ、今後の活動につながる有意義な研修となりました。

講演「災害時における統括保健師のコンピテンシー（実践能力）」では、マネジメント機能を発揮するため「経験から学ぶモデル」について説明がありました。

災害時の中核的機能は、思考・意思決定であり、方針の設定、指示・調整する等は、それらを具現化する行動です。能力開発においては、統括保健師が自己の思考や意思決定、行動の問題点を把握し、改善の方向と改善策を得るために必要な学び

(知識・技術・態度)が得られるよう、リフレクション(内省)の重要性が説明されました。

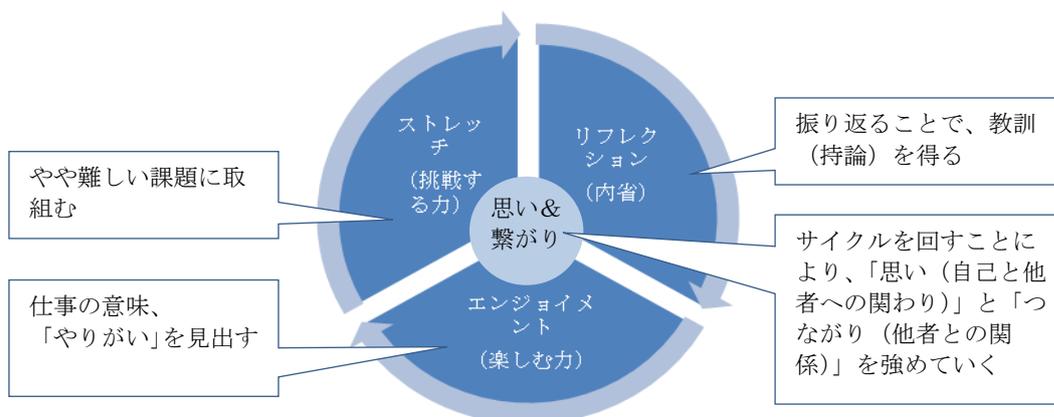


図 経験から学ぶ力のモデル

平成30年7月豪雨、平成30年北海道胆振東部地震では、本県からも保健師の災害派遣がされ、全国的な動きとして、平成30年7月豪雨では、全国で初めて災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)の派遣がされました。

東日本大震災を経験した私たちだからこそ、危機意識をもって受援・応援の体制を整備し、被災者支援にあたる必要があるのだと感じました。

全国保健師長会福島県支部と看護協会との看護に関する懇談会の報告

福島県保健福祉部健康増進課の前田香さんからの報告です。

平成30年10月13日(土)、福島県看護会館において「福島県看護協会との看護に関する懇談会」が開催されました。

当支部からは、支部長の鈴木さん、福島市の近江さん、県健康増進課の前田が出席しました。

懇談のテーマは、「平成30年度の事業実施状況」と「平成31年度に向けての意見交換」でした。

平成30年度の事業実施状況では、福島県看護協会より、以下の4つを重点事業としており、専門研修の実施により離職率が5%低下したことや、「(3) 全世代を対象とした地域包括ケアシステムにおける看護機能の強化」は、特に保健師との連携が重要であることなどの説明がありました。

意見交換については現認教育がテーマとなり、看護現場においても現任教育は課題であり、新人看護師の状況をみながら、その方にあった業務を探し、適材適所に配置することにより、離職防止を図っているとのことでした。また、看護実習の円滑な実施のため、専任教員と臨地実習指導者の交流会を開催しているとのことでした。

現任教育は、看護師が先行して実施されており、保健師についても、看護師の教育体制等を参考に、充実が図られればと思いました。

【福島県看護協会 平成30年度重点事業】

- (1) 医療機関や地域において役割が発揮できる看護職の質の向上
- (2) 健康で安心して働き続けられる職場作りの推進
- (3) 全世代を対象とした地域包括ケアシステムにおける看護機能の強化
- (4) 災害支援体制の強化

平成31年度に向けての意見交換では、現任教育体制の強化と、就労定着促進、被災地の人材確保を図ることなどについて共有しました。

福島県看護協会との懇談は、看護師等の現状や現任教育体制などを知ることができ、今後の参考となるものでした。

来年度の懇談会は、秋ごろの開催予定となっております。

*今回、研修会等に出席いただきました会員の皆様から、報告をいただきました。

会員の皆様に、新しい情報をお伝えしていきたいとニュース発行をすすめていますが、他県の会員の皆様との交流や全国の刺激もさらに受けていただきたいと思います。日程等なかなか、難しいこともあると思いますが、積極的に研修等にご参加いただければありがたいです。今後ともよろしくお願いします。

(文責 鈴木栄子)

編集後記

皆様の「目指す保健師像」はどのようなものでしょうか？

来た道を振り返った時、どんな道ができていますか？

山あり谷あり、笑いあり、涙あり・・・とても一言では言い尽くせるものではないと思います。歩んできた道のところどころに花を咲せたり、明るい光をともらせてきたのではないのでしょうか。未来もまた、住民さんのために役立つ保健師でありたいと思う日々です。

(担当 伊達市：伊藤 県中保健福祉事務所：橋本)